

令和3年度

淑徳大学地域支援ボランティアセンター活動報告書



淑 徳 大 学

巻 頭 言

本センターは、淑徳大学の全学的な地域支援・ボランティア活動において、本学の建学の精神「利他共生の理念と実学教育」を行動化し、その実践を教育研究と社会貢献に資することを目的として設置されたものです。

新型コロナウイルス感染拡大による3密状況（密閉・密集・密接）回避のため、学生・教職員によるボランティア活動は中断することもありましたが、その経験を経て現在は各地域の実情を配慮しながら、徐々に再開をしています。

本学では、東日本大震災の発災から被災地に寄り添うべく、災害ボランティアの活動を直後より行い、現在も東日本大震災を知るスタディーツアー、被災地へのパネルシアター、学習支援を継続しています。さらに、近年の自然災害におけるボランティア活動を迅速に実行できるように組織立って手順化しています。

また、認知症問題にも取り組み、各キャンパスでは自治体と協力し、認知症サポーター養成講座にも取り組んでいます。

本書は、令和3年度に本センターの活動を中心とした報告書です。全学的な取り組み、活動内容をご理解いただくとともに、プログラムに参加した学生の成長を読み取っていただければ幸いです。本学学生と教職員によるボランティア活動は、受け入れてくださる地域の皆様の許しがあってはじめて成り立つものです。ここにご協力いただいた地域の方々、関係機関の方々に改めて感謝を申し上げます。

新型コロナウイルスの対応ばかりでなく、いま世界では、考えもしなかったことが起きています。だからこそ今、私達は私達にできることをしていく、平和を願い、地域に根をはり、地域の方と共に生きる大学の役割を担うために、本学は大学運営の基本方針の強化する政策の1つとして、地域支援ボランティアセンターの発展と強化を盛り込み、新たに地域共生センターの設立を目指して現在取り組んでいます。

本学の風土、文化のなかに、本センターの取り組みが溶け込み、教職員や学生における自利、利他共生の考え方や行動が日常化することにより、淑徳大学の地域共生のふくし文化がはぐくまれ、確実に築かれていくことを願い、巻頭言とさせていただきます。

淑徳大学地域支援ボランティアセンター長 山下 興一郎

目 次

巻頭言

1. センター活動	1
第10回 パネルシアターキャラバン	3
第9回 スタディーツアー	21
ボランティア活動における助成制度 実績報告	25
認知症サポーター養成講座	47
2. 各キャンパスにおける活動内容	51
千葉キャンパス	53
千葉第二キャンパス	54
埼玉キャンパス	55
東京キャンパス	56

1. センター活動

淑徳大学 復興支援プログラム

第10回 パネルシアターキャラバン

※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により
実施内容が変更になりました

主催：淑徳大学地域支援ボランティアセンター／復興支援プログラム
第10回 パネルシアターキャラバン（2月）

【変更前】

◆概要

活動日時：2022年2月8（火）～10日（木） 2泊3日

参加定員：10名程度

参加費：15,000円（往復の交通費（JR東京都区外は各自負担）、宿泊費および現地滞在中の食事を含む。）
※助成により減額になる場合があります。

活動場所：宮城県山元町・丸森町・石巻市

◆目的

淑徳大学地域支援ボランティアセンター主催の東日本大震災復興支援プログラム「パネルシアターキャラバン」は、淑徳発祥の「パネルシアター」を学生たち自ら上演し、子ども達を始め被災地の方々と交流を深めることを目的に実施しています。また、被災の現実と復興の現状に触れ、本学の建学の精神を体験的に学ぶボランティア活動です。コロナ禍で中止となっていましたが、今年度は感染症対策を万全に行いながら実施します。

パネルシアターに興味関心のある方、授業でやったことのある方、どこかで体験したことのある方も大歓迎です。

今年度は、宮城県山元町、丸森町、石巻市の保育園や児童館に赴き上演します。また、防災センターや伝承館、震災遺構の見学も行います。是非ご応募ください。一緒にパネルシアターで交流しましょう。

◆スケジュール ※感染状況により、内容が変更となる場合があります。

日程	主な活動内容（案）※実施施設は現在調整中
12/23（木）	事前研修・打合せ（埼玉キャンパス）※参加必須。午前中実施予定。 ※Sナビにてご連絡します。
2/8（火）	07：40 東京駅集合（藤田および希望学生は大宮から乗車） 07：56 07：56東京発→09：30仙台着（JR新幹線はやぶさ103号・盛岡行） 11：00 山元町防災拠点・山下地域交流センター着。 11：40 いちご🍓ワールドでいちご狩り。12時20分まで。 12：30 ふじ幼稚園着。 12：50 からパネルシアター、13時40分まで。 13：50 から14時50分まで山元町防災拠点・山下地域交流センターでの学習。 15：20 から16時20分まで、震災遺構中浜小学校での学習。 17：00 宿泊所 到着（夕食後、ミーティング） 宿泊先：ホテルグランド新地着
2/9（水）	08：30 宿泊所 出発 09：30～10：30 丸森町幼保連携型認定こども園 丸森ひまわりこども園 訪問（パネルシアター公演・交流）2歳児以下26名程度+子育て支援センター参加親子数名 【連絡窓口担当者：主幹 平間先生（0224-87-8983）】 11：00～12：00 保育所型認定こども園 丸森たんぽぽこども園（パネルシアター講演・交流）5、6歳児対象 【連絡窓口担当者：園長 村田先生（0224-86-4336）】

日 程	主 な 活 動 内 容 (案) ※実施施設は現在調整中
2/9 (水)	11:30 昼食 14:30 相馬周辺ボランティア・視察 (未定) 17:30 宿泊所に到着 (夕食後、ミーティング)
2/10 (木)	08:30 宿泊所 出発 09:30 石巻市保育所 訪問 (パネルシアター公演・交流) 11:30 昼食 12:30 石巻南浜津波復興祈念公園／みやぎ東日本大震災津波伝承館 見学 14:00 石巻 出発 15:31 仙台駅発→17:04東京駅着JR新幹線はやぶさ28号・東京行

*引率教職員 2名 (埼玉キャンパス：藤田佳子 他1名)

*事前学習を埼玉キャンパスにて、1～2回行います。(2回目の実施は参加者に合わせて決定します)

- ◆**申込方法**：下記の各キャンパスボランティア担当へ、12月10日(金)までに申込書記入の上、学割2通を発行し、お申し込みください。(定員になり次第募集終了となります。)

主催：淑徳大学地域支援ボランティアセンター／復興支援プログラム
第10回 パネルシアターキャラバン（2月）

【変更後実施報告】

◆概要

活動日時：2021年12月23日(木)・2022年1月24日(月)・2月8日(火)～10日(木)
2月17日(木)～21日(月)

参加定員：11名

活動場所：淑徳大学埼玉キャンパス

◆目的

淑徳大学地域支援ボランティアセンター主催の東日本大震災復興支援プログラム「パネルシアターキャラバン」は、淑徳発祥の「パネルシアター」を学生たち自ら上演し、子ども達を始め被災地の方々と交流を深めることを目的に実施しています。また、被災の現実と復興の現状に触れ、本学の建学の精神を体験的に学ぶボランティア活動です。コロナ禍で中止となってしまいましたが、2019年台風19号の被災地へ「笑顔と元気」を届けるため訪問の代わりにDVDを送付することに決まりました。

◆スケジュール

日程	主な活動内容
12/23 (木)	場所：練馬区光が丘 10～13時 ・活動概要 1. 顔合わせ・LINEグループ作成 2. 活動の目的 3. パネルキャラバンの行程説明 4. パネルシアターのプログラムおよび担当決め 5. パネルシアターの練習 6. 今後のスケジュール 7. 次回の事前指導日 決め
1/24 (月)	場所：Zoom ミーティング 20時30分～22時 ・活動概要 1. 訪問中止について 2. DVD制作の説明 3. 撮影プログラム決め 4. 練習日程と時間決め
2/8 (火)	場所：淑徳大学埼玉キャンパス 9時30分～15時 ・活動概要 1. 撮影用舞台セッティング 2. パネルシアターのパート別練習
2/9 (水)	場所：淑徳大学埼玉キャンパス 9時30分～18時 ・活動概要 1. パネルシアターのパート別練習 2. パネルシアターの通しリハーサル

日 程	主 な 活 動 内 容
2/10 (木)	場所：淑徳大学埼玉キャンパス 9時～17時 ・活動概要 1. 撮影業者との打ち合わせ 2. パネルシアター撮影に向けての位置決め・音響調整など 3. パネルシアター上演の撮影（1部・2部）
2/17 (木) ～21 (月)	場所：淑徳大学埼玉キャンパス ・活動概要 1. レポート（学びと課題）提出
3月末	1. DVD完成
4月	1. DVDを宮城県丸森町・山元町の幼稚園・保育園に送付

参加者

	キャンパス	学籍番号	学科	学年	氏名	性別
1	埼玉キャンパス	18K008	こども教育	4	石井 優斗	男
2	埼玉キャンパス	18K014	こども教育	4	岩出 旬平	男
3	埼玉キャンパス	18K016	こども教育	4	牛久保春菜	女
4	埼玉キャンパス	18K034	こども教育	4	古賀慎一郎	男
5	埼玉キャンパス	18K072	こども教育	4	奈良 雅哉	男
6	東京キャンパス	H18043	表現	4	澤本 有咲	女
7	埼玉キャンパス	19K001	こども教育	3	赤羽 優花	女
8	埼玉キャンパス	19K013	こども教育	3	石原 彩姫	女
9	千葉キャンパス	C01035	社会福祉	2	大里 愛莉	女
10	千葉キャンパス	C01081	社会福祉	2	小山 直香	女
11	千葉キャンパス	C1E029	教育福祉	1	加瀬 暖奈	女

「素敵な仲間たちとの最後のパネルシアターキャラバン」

教育学部 こども教育学科 4年 石井 優斗

今回のパネルシアターキャラバンの参加は3回目だった。1回目は1年生の冬に現地に出向き、子供たちをはじめとする多くの方々とパネルシアターを通して関わった。また、被災地を実際に見て学び、東日本大地震の恐ろしさ、とりわけ津波の恐ろしさを目の当たりにした。2回目はパネルシアターの練習をしていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止になってしまった。そして、今回の3回目のパネルシアターキャラバンも、現地に行くことは叶わず、現地の方々に直接パネルシアターを披露することはできなかった。しかし、今回のビデオ撮影を通して、現地の子供たちに少しでも楽しんでもらえば嬉しく思う。

パネルシアターのビデオ撮影自体は、今回で2回目であった。ビデオ撮影は、実際に子供たちが前にいないことから、パネルシアターの良さの1つである、子供たちとのやりとりができない。私が演じた『いわしのひらき』と『そっくりさん』はどちらもやりとりがある作品であったため、ビデオ越しにいる子供たちが楽しめるようにするための方法がとても難しかった。また、時間も気にしながら、長すぎないようにすること、時間を気にしすぎて早くなりすぎないようにすることも注意しながらの撮影だったこともあり、とても難しかった。

作品を演じてみると、時間がかかりすぎてしまい、ぐだぐだとした感じになってしまった。『いわしのひらき』は魚の名前を当てるクイズをやっているが、先生のアドバイスでこちらから紹介する形にした。『そっくりさん』も同様にクイズ形式で行っていたため、時間がかかっていた。そこで、仲間の一人から、「いないいないばあの形でそっくりな動物たちを出せばよいのでは」と提案された。そのアドバイスのおかげで、テンポよく楽しいパネルシアターを演じることができたと思う。また、今回の対象が乳児と幼児であったことから、それぞれの発達の段階に応じたパネルシアターを演じることができるようになることも大切であると学ぶことができた。



今回で最後のパネルシアターキャラバンとなってしまったが、卒業後もパネルシアターの演じ手として活動できたらしたい。また、3月にはスタディーツアーとして宮城の被災地に行けることを願っている。将来、教員として子供たちに東日本大震災について、地震・津波の恐ろしさをしっかりと伝えることができるようにしたい。最後に今回のパネルシアターキャラバンのメンバーと先生方に感謝の気持ちを申し上げる。



子どもたちに笑顔を届けるために

教育学部 こども教育学科 4年 岩出 旬平

コロナウイルスの影響でDVDを制作して東北の幼稚園・保育園に送るという形となった。本来は練習や宿泊を通して、仲間との絆を深め東北の子どもたちに笑顔を届けるのがパネルシアターキャラバンの良いところだと私は考えていたため、数日しか練習せず、互いのことが分からない中で本当にできるのか不安に思っていた。だが、撮影当日は全員が協力し練習や準備を行い、円滑に進めることができた。

今回はパネルシアターを目の前の子どもたちに向けてではなく、カメラに向かってだったので、いつものパネルシアターとは勝手が違った。自分が問いかけても何も反応が来ない中で、どう盛り上げるべきかととても悩んだ。さらに、どうしたらこの動画を観た子どもたちが楽しんでくれるのかも考える必要があった。練習や打ち合わせの中で、対面でも動画でもパネルシアターの根底にあるのは、楽しませるのもそうだが、演者本人が楽しむことだと藤田先生や友人に教えられ、全力で楽しんで撮影に臨んだ。パネルシアター以外の方法で他人を笑顔にする際も自分自身が笑顔でなければ、何もできない。これは教職に就いてからも重要なことだと感じた。

今回は日数が少ない中で練習、撮影を行い、撮影は業者のカメラマンさんが行ったが、時間と技術さえあれば、学生だけで動画の構成を考え、撮影編集をしてDVDを制作しても良いのではないかと思った。少し大変なことではあると思うが、「どんな動画にしたいのか」、「どんな思いを動画に込めるのか」などを話し合い、思いを共有できれば、よりよいものが出来上がるのではないかと考える。

実際に東北の幼稚園・保育園に行き、子どもたちの笑顔の間近で見たかったが、健康・安全のためにはしょうがないことである。私たちのパネルシアターDVDで子どもたちの生活が少しでも明るく楽しいものになることを祈っている。また、着々と行われている復興もより一層進むことを願い、亡くなられた方のご冥福をお祈りする。これからも何らかの形で手助けができればよいと考えている。

最後にパネルシアターキャラバンを通して、笑顔を届けるのに大切なことを学び、パネルシアターのすばらしさを再確認することができた。パネルシアターは、みる人と演じる人のみならず、演じる人同士もすぐに仲良くなり、つながることができるものだと改めて感じた。今回の出会いを大切に、また同じメンバーで何かをしたいと思った。藤田先生、ボランティアセンターの方を含めた13人でこの企画に携われて本当によかった。



パネルシアターを通じて出会えたみんな

教育学部 こども教育学科 4年 牛久保 春菜

私は今回初めてパネルシアターキャラバンに参加しました。実際に子どもたちの前でパネルシアターを上演することはできませんでしたが、メンバー全員で団結し楽しくやり遂げることができ嬉しく思っています。

まず事前の打ち合わせを行い、今回参加するメンバーと顔合わせをしました。そこでパネルシアターを通して交流し、パネルシアターがもつ親しみやすさや楽しさをとっても実感しました。目と目を合わせて一緒に手遊びをしたり、歌が包み込む時間を共有したりする心地良さを、演じる側も見る側も両者が感じるができるのだと改めて感じた瞬間でした。

本番はDVD撮影ということで、普段のように子どもたちの前で行うのとは違った緊張感がありました。音声や写り方など意識しなければいけない部分が多く、それらが緊張感につながっていたのかな、と思います。ただ、声の出し方や聞こえ方、立ち姿というのは子どもたちの前に立つときもすごく大切なところで、今回を通してしっかり意識していこうと思うきっかけになりました。また、限られた時間の中で撮影していく大変さや難しさも感じました。演目を当初考えていたものから変更したり、内容を削って臨んだり、メンバー同士で話し合っって声をかけ合いながら、時間を有効的に使えるよう取り組みました。先輩後輩関係なく提案し合い、より良いものを仕上げようと力を尽くすことができたのがとても良かったと感じています。

これまでサークル活動や実習などでパネルシアターに関わってきましたが、学生として仲間と一緒にパネルシアターを行う機会はまだ少ないのだという寂しさも感じながら練習・本番の3日間を過ごしていました。お互いの演じる様子を見合っって楽しんだり笑顔で一緒に歌う瞬間など、仲間とやるからこそ生まれる気持ちで、すごく楽しく充実した時間になったと感じています。この楽しさや温かい空気感が、DVDを通じて宮城県の保育園の子どもたちや先生方に伝わったらいいな、と思いながら演じていました。練習からみんなで演じていくのを重ねるたびに、子どもたちの前でやりたかった気持ちが募りましたが、その気持ちをエネルギーに換え、楽しんで明るくパネルシアターを行うことができたと思います。

今回パネルシアターキャラバンに参加して、パネルシアターの楽しさ面白さを改めて感じました。そして、この活動を通じてみんなと出会い関わることができて良かったと思っています。今後もパネルシアターにたくさん関わっていきたく強く感じた3日間でした。



パネルシアターキャラバンの新たな形へ

教育学部 こども教育学科 4年 古賀 慎一郎

本来なら「パネルシアター」の公演を通して、現地の保育所や幼稚園へ、直接触れ合うことができたが、新型コロナウイルスの影響でそうしたことは叶わなかった。

しかし、今回のパネルシアターキャラバンは、パネルシアターのDVDを撮影し、そのDVDを公演するはずであった保育所や幼稚園に送るという新たな試みとして形になった。このプロジェクトには、同級生の仲間やサークルの後輩、そして東京キャンパス、千葉キャンパスの新たに知り合った仲間と参加することができた。演目決めから、練習、本番の撮影までと期間が短かったが、みんなでより良い物を作ろうという意識が高く、とても充実した内容のDVDに仕上がりに、今から出来上がりがとても楽しみである。大きな達成感を得られたと思っている。

私は、一昨年のパネルシアターキャラバンにも参加し、その当時は現地へ行くことができた。その中でも、特に大川小学校の訪問が印象に残っている。小学校教員になる私にとって、多くの児童が亡くなったということだけでなく、防災教育に対して、どのように取り組むべきかを考えさせられるきっかけにもなった。今回は、新型コロナウイルスの影響で現地へ行くことがままならないと思っていた矢先、来月スタディーツアーという形で現地へ行くことが決まった。被災地を訪れ、被災地の現実から目をそらさずに向き合うことで、私は初めて、被災地と自分自身との関係性の中で、東日本大震災のもつ意味を考えはじめることができるようになったと思う。パネルシアターに興味関心があり、現地の人々と交流したいという気持ちから始まり応募したが、改めて振り返るととても貴重な経験ができたと思っている。こうした経験を活かし、次に繋げて行きたい。



東北の皆さんに笑顔と元気を

教育学部 こども教育学科 4年 奈良 雅哉

あの震災から今年で11年が経ちます。未だにテレビで見た「地震の被害」「津波」の恐ろしさを忘れることはありません。私は、生まれが東北であることもあり、「津波」という大きな自然災害が町をのみ込んでいく様子を見て、心が痛んだことを覚えております。(当時小学5年生でした。)特に、宮城県の大川小学校では、予測以上の津波に多くの児童がのみ込まれてしまったという事例も覚えています。小学校教員になる者として、自分ならあの場面をどう対応すればよかったのか、大学生生活の間に学習しつつ考えていた時期もありました。

今東北の子どもたちに自分に何かできることはないか、そんな時にパネルシアターキャラバンに参加することを決意しました。大学2年の頃、初めて応募させていただきましたが、突然の「新型コロナウイルス」という新たな猛威によりそれは叶わず残念な気持ちでいっぱいでした。しかし、今年度は現地でパネルシアター公演はできなかったものの、ビデオ撮影という形でパネルシアターキャラバンができることが決まったときは嬉しく、精一杯頑張ろうと思いました。最初で最後のチャンスを私は「とにかくパネルシアターを楽しもう。」「東北の地域の子どもたちに笑顔と元気を届けたい。」この気持ちを忘れず参加させていただきました。本番では、子どもたちや保護者の方が見てくれていることを想像しながらパネルシアターキャラバンでの仲間とともに、たくさんの作品を演じたり一緒になって歌って踊ったりしたことが本当に楽しかったです。そして、約2年間パネルシアターサークルにも所属させていただいた経験も生かせ、パネルシアターの集大成として精一杯やり切れたという気持ちでいっぱいです。



笑顔溢れる

人文学部 表現学科 4年 澤本 有咲

東日本大震災から10年、もう間もなく11年を迎えようとしていますが、あの日の記憶は今でも鮮明に覚えています。当時、小学生だった私はテレビで流れてきた津波の映像に衝撃を受け、「誰もが笑顔で暮らせる社会をつくりたい」と防災活動に着手するようになりました。そして、今回参加した第10回パネルシアターキャラバンでは「子供たちに笑顔を」をコンセプトにパネルシアターDVDの制作を行いました。

「日本一、津波のくるまち」として知られている私の地元、高知県は南海トラフ地震の際に34メートルもの津波が押し寄せるとされています。そこで、高校生になり所属した青少年赤十字クラブでは文化祭を通じて住民らとともに避難袋作成や起震車体験など地震の怖さを伝え、学びました。また、熊本地震の際には自分たちに何かできることはないかと「熊本を笑顔に」を合言葉に募金活動を実施し、義援金を被災地へ届けることができました。大学生になってからも1年次には、学習支援ボランティアとして雄勝中学校に赴き、学習面や子どもたち心のサポートを実施しました。2020年には東北の幼稚園や保育園を巡回し、パネルシアターキャラバンを通じて復興支援を行う予定でした。しかしながら、現在も世界中で猛威を奮う新型コロナウイルスの影響を受けて幾度もの延期を繰り返し、今回は約2年振りの実施となりました。今年度も現地での公演はできませんでしたが、被災地で暮らす子どもたちの喜ぶ笑顔を想い浮かべつつ、DVD制作にあたりました。

私自身、パネルシアターを行うのがこれで2回目と初心者ではありましたが、教育学部など大学で学んだ学生が中心となり、前日に2時間ほどの練習を行い、本番を迎えました。当日は東北にいるかのような積雪に、急遽予定を変更し本番は1発撮りで行いました。緊張漂う空間に皆、圧倒されつつも歌や音楽に合わせて歌い遊び終わった頃には緊張がほぐれ演者も笑顔になり、周りを笑顔にするだけでなく自らも笑顔になることができるパネルシアターの魅力を実感しました。また、普段であれば子どもたちに応答してもらいその場の雰囲気に合わせて演じますが、画面越しということもあり役者になりきって演じたりと表現学科で培った伝え方を活かすことができたキャラバンでした。

4月からは社会人として災害現場にて勤務を予定しており、自らが復興支援を企画し東日本大震災だけでなく全国各地、いや世界中で起きた災害現場にて被災者の心のケアとしてパネルシアターを活用していきたいです。また、昨年にはより防災知識を高め、伝えられるよう防災士を取得しました。今後も防災活動を通じて、地元高知県から笑顔溢れる社会を作っていきます。



コロナ禍でのパネルシアター公演で感じたこと

教育学部 小児教育学科 3年 赤羽 優花

今回のパネルシアターキャラバンでは、現地に赴くことが難しくなった代わりにDVDを作成し、子どもたちに届けることとなりました。

今回は、子どもたちがDVDを見ている様子を想像しながら演じることと、どうしたら子どもたちと一緒にパネルシアターを楽しめるかを常に意識して撮影に臨みました。

特に、どのようにしたら映像でも子どもたちが楽しんでくれるかを考え、目元の感情表現を豊かにしたり、動きを大きくしたり、子どもに親しみやすい言葉で話すよう、普段よりも工夫しながら公演を行いました。子どもたちのリアルタイムの反応が見られない分、パネルシアターの魅力である応答性を取り入れるのが難しいと感じましたが、映像を見た子どもたちが一緒に歌ったり踊ったりしたくなるようなパネルができていたら良いと思います。

また、撮影は独特の雰囲気があり、緊張からミスをしたり言葉を忘れてしまう場面もありました。しかし、それをメンバー同士で補い合う姿を見て、仲間と助け合うことのできるパネルシアターの魅力を実感することができました。子どもが目の前にいない環境であっても、これまでのパネルシアターの経験で培った臨機応変に対応する力を生かすことができ、嬉しく思いました。

今回対面での公演ができなかったことは残念ですが、その分いつも増して気持ちを込めたパネルシアターができたのではないかと思います。このパネルシアター公演を通して、コロナ禍で過ごす子どもたちが笑顔になってくれたらいいと思います。



パネルシアターキャラバンDVD制作について

教育学部 こども教育学科 3年 石原 彩姫

ひよこちゃん

乳児向けに『ひよこちゃん』を演じました。DVDを見る乳児を想定して、短い文で話したり、注目しやすいように絵人形を前に出したりしました。ただ「ひよこちゃんが赤くなっちゃった」と言うのではなく、「ひよこちゃんがリングと同じ赤色になっちゃった」と言うように、変化を物とひよこちゃんに関連付けながら演じるよう心がけました。

練習では、一緒に演じたことの無い作品であったため役割や流れを実際に絵人形を動かしながら内容を詰めていきました。また、どうしたら注目して貰えるかを相談しながら、絵人形を前に出したり、動かす前に間をあけて注目を待てるようにもしました。



オニギリぎり

幼児向けに『オニギリぎり』を演じました。この作品は私のオリジナル作品で、DVDを通してたくさんのお子どもたちに見てもらえることが嬉しかったです。子どもたちの反応が見られない分、どのようにしたら子どもたちの反応を汲み取ったものに出るかを相談しながら、全ての選択肢をあげたうえで、1つを選んで進めていくようにしました。

練習では、1人用に台本を作成していたため、2人用に変更しながら練習して行くのが難しかったです。この作品でも、どのようにして注目が貰えるかを相談しながら絵人形を前に出したり、動きを大きくしたり、前フリを丁寧にするなどして演じました。



アンダーザシー

幼児向けに『アンダーザシー』を演じました。絵人形の出し入れが多く、どの順番で出すかやパネルを隠さないようにすることを気をつけて演じました。仕掛けが出なくて焦る場面もありましたが、最後までやりきることが出来て良かったです。

練習では、仕掛けや出す順番を覚える事が大変で、絵人形の配置も気をつけて置けるようにイメージをたくさんしました。



もっと早く知りたかったパネルシアター

総合福祉学部 社会福祉学科 2年 大里 愛莉

大学のSナビでパネルシアターキャラバンの募集が流れてきた。そこには、被災地の現状も学べると書いてあり、私はパネルシアターより被災地を学べるという所に惹かれこのボランティアに応募した。先が見えない中で始まったパネルシアター。実際コロナ禍もあり被災地研修は延期となってしまった。しかし、メインはパネルシアターなので切り替えて楽しもう！と思い、楽しんだ。



右も左も分からない中、始まったパネルシアター。1月に1回くらい練習できたら良かったが、日程調整が難しく2月の初旬2日間で練習した。実際、担当するパネルを覚えることに苦戦したが物凄くやりがいがあり、どれも楽しかった。ここまでやりきれたのは先生



を初め、千葉キャンパスの2人と埼玉・東京キャンパスの先輩方が優しく一から親身に教えて下さりこの魅力や楽しさをたくさん教えて下さったほか、先輩方のパネル上演の上手さに凄く感動し学びが多かったからだ。それは、先輩方のパネルシアターは実際に子ども達と会話しているかのように某教育テレビを観ているように自然とパネルシアターの世界に引き込まれていったことのほか、それぞれの作品の特性を最大限に表現されていて魅了された自分がいたからだ。それらのことを踏まえ私が担当したパネルシアターを振り返ると、たくさんの失敗で悔しかった。しかし、それをはるかに上回る楽しさとやりがいに気づけた自分がいて他の作品にも

チャレンジしたいという気持ちになっていた。2日間の練習では、埼玉キャンパスの先輩方が見捨てず、たくさんアドバイスをして下さい、千葉キャンパスの2人も沢山助けてくれて話すのが上手ではない私をサポートしてくれ、自分だけなんでこんなにも話せないのだろう。という葛藤やもやもやと戦っていたが、寄り添い、救いの手を差し伸べて下さり感謝してもしきれない。

こうして振り返り、大学入学当時からパネルシアターという言葉だけ知っていたが、どんなものかは知らず興味をもてずにいたことを後悔している。千葉キャンパスの方もでんでん虫が強化団体としてあり一歩踏み出せば良かったと思うほど、この3キャンパス合同で行ったパネルシアターは充実し3日間あっという間に感じるほど有意義な時間となっていた。それに初めて埼玉キャンパスに出向き施設の綺麗さに感銘を受けた。設備も充実していて学食も某パークを想像し、居るだけでワクワクするキャンパスだった。3日間埼玉キャンパスの恵まれた環境でパネルシアターを行えて心から感謝している。

最後にこのメンバーで最高で最幸なパネルシアターを上演でき、沢山笑ってたくさんコミュニケーションをとり温かい雰囲気の中でパネルシアターの魅力に気づけたのは私の中では光栄で貴重なものとなった。このような機会を与えて下さり心から感謝したい。

●ほんとうにありがとうございます！●

来月の被災地研修もこれからの活かせるものとなるように学びある充実した時間にしたいと思う。今から楽しみだ。



初めてのパネルシアター

総合福祉学部 社会福祉学科 2年 小山 直香

今回初めて参加したパネルシアターの活動でしたが、他の学部の学生たちと練習する中で子どもに対する接し方や考え方など多くのことを学びました。

活動に参加した当初はパネルシアターがどんなものなのか、どうやって行うのかもわからない状態でのスタートでした。初めは発表中に流れる曲の歌詞を覚えるのが大変でした。曲は知っていても、歌詞まで覚えることは普段やらないので何度も曲を聴きました。本格的な練習では経験者の学生にお手本を見せてもらい、真似をする形で練習をしていきました。そんな中でパネルシアターは決まった台詞を言っていくというよりはアドリブで進めることが多いとアドバイスを受けたのが印象的でした。本番は子ども達と楽しみながら進めていくので、その場の会話から台詞を変えていくという、簡単なようで難しいのが普通の劇や発表と違うところだと思いました。他にも、前の発表の内容から次の発表に移る時に急に始めないで違和感なくつなげるような一言も添えていて、芸が細かいと感じました。また、「子どもは5秒くらい間があると飽きてしまう」ということを言われて驚きました。常に話して進めていかないと観てもらえないのが子どもを対象にした発表なのだと改めて思いました。普段は高齢者の方や障害者を対象にした接し方を学んでいたの、子どもへの学びは新鮮でとても面白かったです。

一緒に活動をする中で普段は話せない他のキャンパスの学生さん達と交流できたのも貴重な経験になりました。コロナ禍で同じキャンパスの学生とも会わないこともあり、違う学年・学部の人達と練習しながら進めた活動は本当に楽しかったです。当初予定していた現地で子ども達に直接発表することは叶いませんでしたが、代わりに送るDVDの撮影をプロのカメラマンに取ってもらうのは緊張しましたが、いい経験になりました。本番前に、「失敗しても、その失敗を子ども達に気づかれないように自分も楽しむ勢いでやればいい」とアドバイスをもらいました。ほとんど練習なしでの本番でしたが、この言葉にとっても救われました。マスクや画面越しでも子ども達が楽しめるように、なるべく笑顔で身振り手振りをして発表しました。カメラの位置や余計な音を立てない移動など、撮影独自の雰囲気や進行の進め方も勉強になりました。そうして撮ったDVDの内容を、はじめから通して最後まで撮影し終わったときの達成感は本当にすごかったです。目の前に子ども達がいなかったのは少し寂しく例年とは違う内容でしたが、他の学部の人と交流しながらやり遂げた活動はとても楽しかったです。また別の機会があれば、パネルシアターの活動に参加したいと思いました。



パネルシアターキャラバンから学んだこと

総合福祉学部 教育福祉学科 1年 加瀬 暖奈

パネルシアターキャラバンに参加しようと思ったきっかけは、学生の時にパネルシアターの勉強をして経験していたら、将来保育士として働く時に役立つと思ったからです。大学の講義がない期間にパネルシアターに触れることができるという情報を得た時、すぐに申し込みました。今までやったことがないことに手を伸ばすのは、少し不安ではありましたが、時間があるのは今しかないと思い参加を決めました。

今まで、パネルシアターの経験はなく見る側のみだったので、一から丁寧に教えていただきました。実際に経験のある先輩方に演じてもらい、それを見て勉強しました。オリジナルの作品や、作品に自分で考え工夫を凝らしたものなどたくさんあり、今回参加した先輩方のパネルシアターへの思いを感じることができました。実際にやってみるとパネルシアターはとても面白いものでした。それぞれに仕掛けがあり、どれも新鮮で奥が深く興奮しました。特に「ハッピーチルドレン」の子どもの表情を変える仕掛けや、「変身おばけちゃんの大冒険」のコップのジュースが減る仕掛け、「たこ焼きパクッ！」のたこ焼きを作る過程の仕掛けが面白かったです。子どもたちが見たらとても喜ぶと思いました。

最初は演じることに苦手意識があるのと緊張が重なって恥ずかしくなってしまう、思うように演じられませんでした。しかし、先輩方が一つひとつの作品に向き合い、自信をもって楽しそうに演じている様子を見ていたら自然に気持ちが整いました。どうしたらよいか、作品の事や全体の事を真剣に丁寧に相談しながら決めていき、テキパキと動く先輩方はとても素敵でした。私のパネルシアターを見ている時にきっと、先輩方は「私だったらこうするのに」というようなもどかしい思いをたくさんしていたと思います。ですが否定せず尊重し、私にもできるような、さらに良くなる演じ方のポイントや、注意点を親切に教えてくださいました。私からのたくさんの質問をその都度丁寧に答え、練習にもたくさん付き合ってくださいました。緊張や不安もありましたが、楽しくパネルシアターデビューをすることができました。

今回は、新型コロナウイルスの影響で、直接現地に行き、子どもたちの反応を見ながら公演できなかったのはとても残念でしたが、キャラバンの活動が中止にならず、ビデオに作品として残せたことをとても嬉しく思っています。また、パネルシアター以外にも先輩方と進路に関する話をするなどとても有意義な時間を過ごすことができました。先生や先輩方と一緒に活動できて幸せでした。ありがとうございました。



朝日新聞厚生文化事業団 主催 「大学ボランティアセンター公募助成」 活動報告会に参加しました。

朝日新聞厚生文化事業団 主催「2019年度 台風19号大学ボランティアセンター公募助成」活動報告会（オンライン）が2022年6月19日（日）に開催され、この度助成対象となった本学「パネルシアターキャラバン」の実践報告と大阪ボランティア協会理事長によるワークショップに参加しました。



【参加大学】

淑徳大学、福島大学、中央大学、仙台大学、宮城大学、常葉大学、大阪公立大学 計7大学

【実践報告】

実践報告では、「コロナ禍に災害支援と向き合って」をテーマに福島大学、中央大学、淑徳大学が報告し、本学参加学生3名（卒業生含む）と教職員が発表しました。

【実践報告発表内容】

大学地域支援ボランティアセンター主催 第10回パネルシアターキャラバン

報告者：指導教員と参加学生3名（卒業生含む）

内 容：

2019年度、令和元年台風第19号で甚大な被害のあった宮城県丸森町へ3月上旬に訪問予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、直前で中止となりました。2020年度もコロナ禍のため、活動ができませんでした。2021年度は2月上旬に丸森町に訪問の予定で準備をしていましたが、2022年1月19日に首都圏（1都3県）に「まん延防止等重点措置」が発令され、残念ながら2月上旬の訪問を取りやめました。そこで「今できることは何か」を学生たちと話し合い、訪問する代わりにパネルシアター上演のDVDを作成して、お届けすることになりました。2月10日に乳児用と幼児用のプログラム2本を撮影し、丸森町・山元町の保育園や幼稚園など10か園にお届けすることができました。

活動における成果や課題を参加した3人の学生は、自らの言葉で苦労した点や学びなども含めてわかりやすく報告しました。

↓発表スライド抜粋

<2019年度>



- ・令和元年台風第19号の甚大な被害を受けた宮城県丸森町に2020年3月10日～13日に訪問予定
- ・2月上旬から準備に入る(2/2、2/20)
- ・コロナ感染が拡大したために、感染拡大防止の観点から中止

<2021年度> DVD動画制作・撮影！！

- ・2022年2月10日(木)
- ・埼玉キャンパス



【学生たちの感想】

- ・経験者の学生にお手本を見せてもらい、真似をする形での練習。パネルシアターは子ども達とやり取りをしながら演じるので、アドリブで進めることが多いと助言されたのが印象的でした。
- ・マスクや画面越しでも子ども達が楽しめるように、笑顔で身振り手振りも大きくしながら演じ、自分自身も全力で楽しんで撮影に臨みました。笑顔が人を笑顔にすることに気づきました。
- ・この楽しさや温かい空気感が、DVDを通じて宮城県の保育園の子どもたちや先生方に伝わったらいいな、と思いながら演じました。 etc.

【報告会とワークショップに参加した学生の感想】

- ・ボランティア活動について、他大学では様々な取り組みを行っていることを知る良い機会でした。他大学との活動も積極的に行うことで、さらに充実したボランティア活動が可能になると思いました。今後もこうしたイベントが必要だと強く感じた報告会でした。
- ・他大学の発表や報告を聞きとても勉強になりました。ボランティアというひとつのくくりですが、がれき撤去をはじめ食や保育教育・高齢者福祉など、それぞれが様々な分野で活躍していくことができるのだと交流を通して学びました。卒業生という身での参加で、学生のときに戻ったような懐かしさも感じながら楽しく参加させていただきました。ボランティア等を通じた出会い・人と関われることの素敵さについて改めて考え、今後も携わっていきたく強く感じた報告会でした。

この度の朝日新聞文化事業団助成事業を通して、ボランティア活動を行う他大学の学生、教職員と繋がることができたことに感謝し、災害時にそれぞれの大学の強みを生かし、またカバーしあえるネットワークづくりを今後展開と実践していきます。

淑徳大学 復興支援プログラム

第9回 スタディーツアー

※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により中止

主催：淑徳大学地域支援ボランティアセンター

第9回 スタディーツアー



◆概要

活動日時：2022年2月24日（木）～25日（金） 1泊2日

参加定員：10名程度

参加費：15,000円（往復の交通費（JR東京都区外は各自負担）、宿泊費および現地滞在中の食事を含む。）

視察場所：宮城県山元町・石巻市他

◆目的

東日本大震災から10年。その後も大きな被害をもたらす地震や災害（台風や集中豪雨等）が日本各地で発生し、自然災害の増加を実感している人が増えている一方、防災意識の薄れを感じている人もいます。

今年度は、宮城県の震災遺構となった2つの小学校と防災拠点・交流センター等を視察し、現地の被災状況や教訓、備えについて体験的に学び、今後自らの地域に災害が起こった時を想定し、災害時・平時の取り組みについて考え、行動する機会を得ることを目的に開催します。コロナ感染症対策を万全に行いながら実施します。

是非ご参加ください。

◆スケジュール

日程	主な活動内容（変更する場合があります）
2/24（木）	07：40 東京駅集合
	07：56 07：56東京発→09：48古川駅着（JR新幹線はやぶさ103号・盛岡行）
	10：00 古川駅周辺にてマイクロバスに乗車
	11：30 昼食 道の駅 硯上の里おがつ（元たなこや商店街）・昼食
	13：00 石巻市雄勝ローズファクトリーガーデン （震災語り部から津波の恐ろしさと防災上の教訓を学ぶ）
	14：30 震災遺構 大川小学校 （児童・教職員を始め多くの住民が犠牲になった事象と教訓を学ぶ）
	17：00 宿泊地到着 20：00 夕食後 振り返り
2/25（金）	08：30 宿泊地 本学卒業生元教員の岩佐先生と合流 出発
	09：00 山元町防災拠点・山下地域交流センター（つばめの杜ひだまりホール）見学 （安全安心を守る防災拠点の機能と親しみを持ち使いやすい交流拠点の役割を学ぶ）
	10：20 震災遺構 中浜小学校見学 （90人の命を守り抜いた小学校から災害に対する備え、意識の大切さを学ぶ）
	11：30 山元町防災拠点・坂元地域交流センター 昼食とワークショップ（交流センター内会議室） （被災地それぞれの状況や今後の備えについて考察し、ディスカッションする）
	13：30 道の駅「やまもと夢いちごの郷」
	15：57 仙台駅発→17：32東京駅着JR新幹線はやぶさ30号・東京行 到着後解散

◆引率教職員：(教員1名、職員1名)

◆参加費：15,000円(往復の交通費(自宅からJR東京都区間までは各自負担)、宿泊費および現地滞在中の食事を含む。)

◆申込方法：下記の各キャンパスボランティア担当へ、2022年1月31日(月)までに申込書、承諾書記入の上、お申し込みください。(定員になり次第、受付を終了します)

千葉キャンパス・千葉第二キャンパス：千葉キャンパス15号館1階

学生サポートセンター内 地域支援ボランティアセンター

埼玉キャンパス：学事部 学生厚生担当

東京キャンパス：3号館1階 ボランティアセンター

ボランティア活動における 助成制度 実績報告

ボランティア活動における助成制度 実績報告

●新型コロナ感染拡大に伴うボランティア活動助成制度申請数・・・1件

●新型コロナ感染拡大に伴うボランティア活動助成制度採択数・・・1件

活動報告（新型コロナ感染拡大に伴うボランティア活動助成制度採択事業）

1. 団体名：ボランティアサークル ドルフィンズ

2. 代表者氏名：総合福祉学部 社会福祉学科 3年 B91165 加藤 大輝

3. 取り組み名：ぬいぐるみ旅

4. 趣 旨：コロナ禍で中々出かけられない人（ドルフィンズの利用者）の代わりに、その人の“分身”を連れていくことで少しでも旅した気分になってもらえるようにサークル内で検討し、千葉県内の観光地等で写真や動画の撮影を行う。具体的な活動として、ドルフィンズや大学に関わりがある方々から、ぬいぐるみや大切にしているものをお預かりし、それを持って各所で写真や動画を撮影する。後日、写真・動画やお土産と一緒にお返りする。

ドルフィンズでは、コロナ禍でもできるボランティア活動の検討をオンライン会議や対面にて続けている。今回のこの新しい活動の試みを通して、コロナ禍でも利用者との繋がりを絶やさないようにすると共にドルフィンズの今後の活動の可能性を探る。

5. 取り組み参加者人数：24名

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1) 社会福祉学科 3年 加藤 大輝 | 13) 社会福祉学科 2年 大里 愛莉 |
| 2) 社会福祉学科 3年 日照田健太 | 14) 社会福祉学科 2年 多根 瑞喜 |
| 3) 社会福祉学科 3年 草野 紗希 | 15) 社会福祉学科 2年 廣澤 由笑 |
| 4) 社会福祉学科 3年 行木 沙依 | 16) 社会福祉学科 2年 村田 安優 |
| 5) 社会福祉学科 3年 齊藤万実子 | 17) 社会福祉学科 2年 石黒 志歩 |
| 6) 社会福祉学科 3年 富岡 瑞奈 | 18) 社会福祉学科 2年 山川 慧大 |
| 7) 社会福祉学科 3年 田嶋 歩美 | 19) 社会福祉学科 2年 鈴木 美帆 |
| 8) 教育福祉学科 3年 伊藤穂乃花 | 20) 社会福祉学科 2年 市川 裕友 |
| 9) 実践心理学科 3年 笠間ちひろ | 21) 教育福祉学科 2年 柴田 彩花 |
| 10) 社会福祉学科 2年 鈴木穂乃花 | 22) 教育福祉学科 2年 清水 萌里 |
| 11) 社会福祉学科 2年 布施 遼太 | 23) 社会福祉学科 1年 椎名 謙 |
| 12) 社会福祉学科 2年 小泉 晴信 | 24) 教育福祉学科 4年 段木真衣香 |

6. 今後のスケジュール

～1月：撮影 1～3月：写真現像・アルバム作成

7. 収支予算

(収入の部)

科 目	金 額	摘 要
大学地域支援ボランティアセンター助成金	100,000円	(事業が採択された場合)
ドルフィンズ部費	6,606円	
合 計	106,606円	

(支出の部)

科 目	金 額	摘 要
交通費	総額： 73,865円	
観光地入場料	総額： 15,180円	
写真現像・アルバム作成費	総額： 6,730円	
消耗品代	総額： 9,931円	
郵送費	総額： 900円	
合 計	106,606円	

8. 全体の活動報告

**学生ボランティアサークル「ドルフィンズ」のぬいぐるみ旅の活動1
(コロナ禍でもできる学生のボランティア活動)**

学生ボランティアサークル「ドルフィンズ」では、コロナ禍で中々出かけられない人（ドルフィンズの利用者）の代わりに、その人の“分身”を連れていくことで少しでも旅した気分になってもらえるようにサークル内で検討し、千葉県内の観光地等で写真や動画の撮影を行っています。また、淑徳大学や各観光地の魅力を少しでも多く知っていただけるように、関係各所の協力のお願いをしながら進めています。

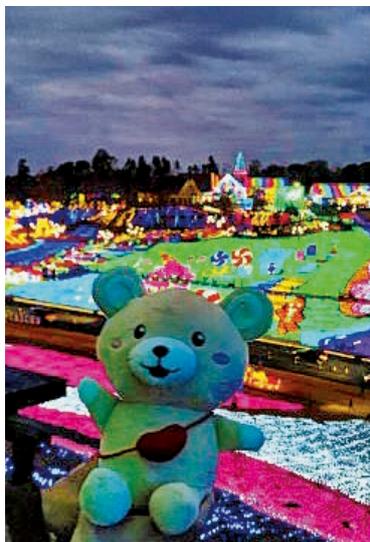
12月5日（日） 木更津市内&ドイツ村

ドルフィンズの「ぬいぐるみ旅」の撮影は12月5日（日）の木更津市内とドイツ村からスタートしました。

撮影にはお預かりしたぬいぐるみの他に、しゅくとくま、千葉ロッテマリーンズのマーくん、ジェフユナイテッド市原・千葉のジェフィのぬいぐるみも一緒に旅をしてもらいます。

メンバー一同、久々の遠出ということもあってとても楽しめました。下級生にとっては初めての本格的なボランティア活動の機会であり、ドルフィンズに参加してくれた意義を作ることが出来てよかったと思います。

上京してきて初めて千葉を観光することが出来たメンバーがおり、千葉県の魅力を知る貴重な機会にもなったと思います。地元が撮影地のメンバーもい



て、地元だからこそ長年行かなかった場所にも出向き、再び地域に寄り添う機会になったと思います。

当日はかなり冷え込みましたが、ドイツ村のイルミネーションはその寒さを忘れさせるような美しさでした。

今後もぬいぐるみを提供していただいた皆さんに楽しんでいただけるように、私たちも楽しみながら撮影をしていきたいと思います。また、ドルフィンズのSNSでも情報発信していきますので是非チェックしてみてください！

12月6日（月） 葛西臨海公園&水族園

今回は葛西臨海公園&水族園での撮影を行いました。

前回同様に今回が初めての活動機会というメンバーがおり、ようやく本格的な活動をする事が出来たことに喜びを感じてもらえました。

12月でもまだまだ紅葉が残っていたので秋らしい写真も撮ることが出来ました。

水族園では優雅に泳ぐ魚たちを見て、メンバーの心も癒されました。水槽前にぬいぐるみを置くと興味津々によってくる魚がいたのも印象的でした。



12月10日（金） 青葉の森公園

今回は青葉の森公園で撮影を行いました。

ぬいぐるみを提供していただいた皆さんと活動したことがある思い出の場所でもあり、当時のことを振り返りながら撮影に臨みました。

公園内にはイチョウの葉が沢山落ちており、黄色いカーペットのようでした。他にも紅葉や赤く色付いた木の実、サザンカなどもあって彩り豊かな自然を楽しむことが出来ました。

メンバーからは、外で活動は気分をリラックス出来るので、プライベートでやってみるのも面白そうだという感想も聞くことが出来ました。



学生ボランティアサークル「ドルフィンズ」のぬいぐるみ旅の活動2 (コロナ禍でもできる学生のボランティア活動)

学生ボランティアサークル「ドルフィンズ」では、コロナ禍で中々出かけられない人（ドルフィンズの利用者）の代わりに、その人の“分身”を連れていくことで少しでも旅した気分になってもらえるようにサークル内で検討し、千葉県内の観光地等で写真や動画の撮影を行っています。また、淑徳大学や各観光地の魅力を少しでも多く知っていただけるように、関係各所の協力のお願いをしながら進めています。

12月12日（日） 千葉市内

今回は千葉市動物公園、千葉市科学館、千葉神社、千葉市美術館などを周りました。

千葉市は私たちにとって身近な街ですが、だからこそ普段行かない場所にも足を運ぶことで、千葉市の新たな魅力を知る貴重な機会となりました。また、身近な場所でも素敵な写真が撮れることを実感できました。

特に美術館では立派な絵画がたくさんあり、写真もきれいに撮影することができました。

この日が初めてのボランティア活動だったメンバーもいて、とても有意義な活動になったと思います。



12月18日（土） 市川&柴又&舞浜

今回は市川、柴又、舞浜。千葉から少しだけ飛び出して旅してきました。

撮影地が地元のメンバーもいましたが、ぬいぐるみと観光することはないので新鮮な気持ちで楽しめたようです。その楽しい雰囲気が写真を通してたくさんの人に伝われば良いと思います。

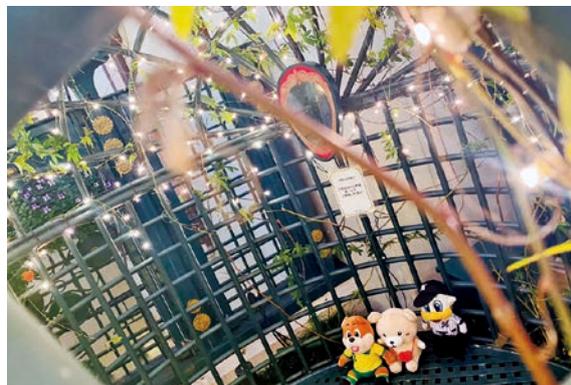
2年生からは、先輩との関わりを持って良かったという感想を聞くことも出来ました。

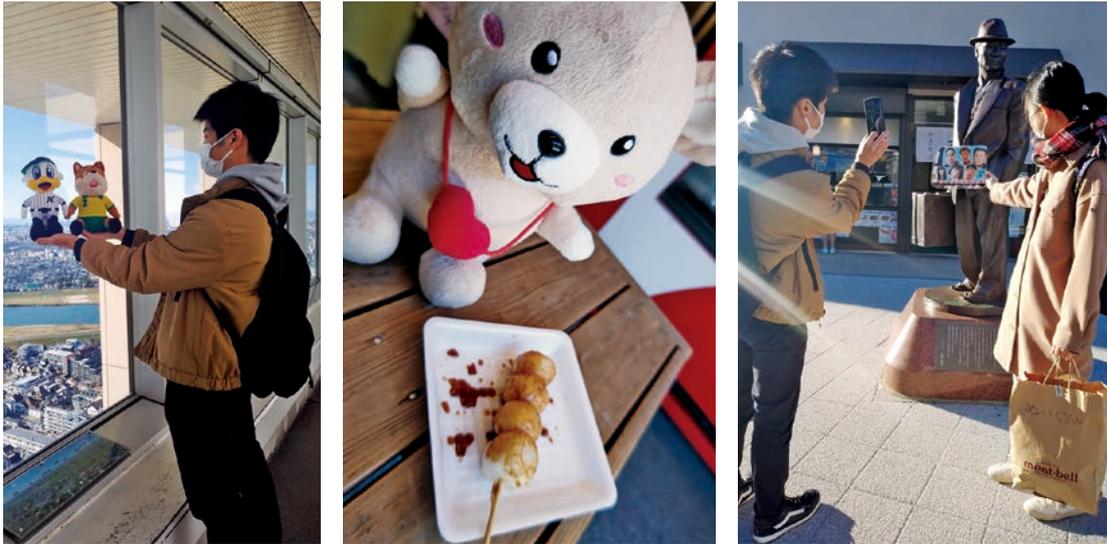
今回で撮影スケジュールはちょうど半分になります。残り半分もメンバー全員で力を合わせて活動していきます。幸運なことに今まで一度も雨に降られたことがないので、このまま最後まで天候に恵まれることを願います。

活動の報告はSNSでも行っています。こちらも是非ご覧ください！

Twitter : @Shuku_Dolphins

Instagram : @dolphins_1981





12月19日（日） アンデルセン公園

今回はアンデルセン公園に行ってきました。この場所は「青葉の森公園」と同様に、ぬいぐるみを提供していただいた利用者の皆さんと活動したことがある思い出の場所です。コロナ前に訪れていた場所に出かけることで、過去の活動を思い出すきっかけにもなりました。

冬でも寒さに負けずパンジーやビオラ、チューリップなどが綺麗に咲いていたのが印象的でした。

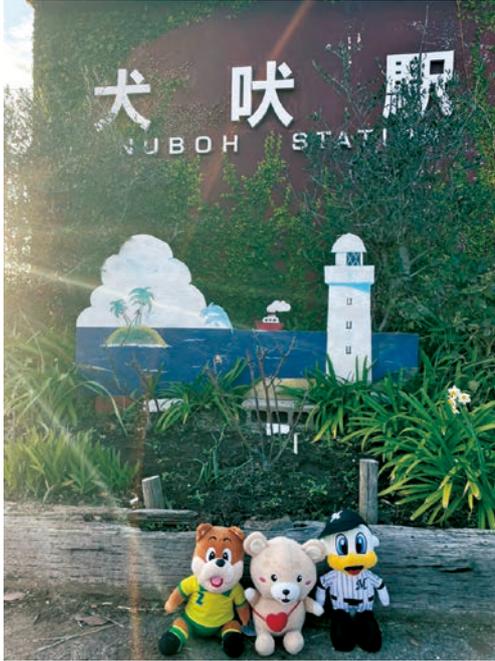
アスレチックなどで遊ぶ元気な子どもたちもいたので、ぬいぐるみたちも楽しい空気を味わえたような気がした。



12月22日（水） 成田山&銚子

今回は成田山、銚子に行ってきました。これまでの活動で一番移動時間を要したハードな旅となりました。年始は多くの人でにぎわう成田山ですが、平日に訪れたことで人も少なく、コロナ対策を十分にしながら撮影することが出来ました。銚子は千葉県に住んでいても中々行く機会がない場所の1つであり、地方出身者だけでなく千葉県育ちのメンバーも千葉県の新たな魅力を知ることが出来ました。

コロナの影響でまだぬいぐるみの持ち主と対面したことがないメンバーが多数いる状況ですが、ぬいぐるみ旅を通して持ち主の皆さんに少しでも近づけた気がするという声もあり、改めてこの活動を行って良かったと思います。



12月26日（日） 佐原

今回はJR佐原駅の周辺での撮影を行いました。佐原駅周辺は歴史を感じる街並みが並んでいるため、撮影地を選びました。

山車や伊能忠敬記念館など歴史に触れることのできる施設があり、楽しみながら学びを深められる場所でした。

今回の活動で佐原の街並みを知ったメンバーもいて、佐原を旅の舞台にしてよかったと思いました。また行きたい！というメンバーもいました。

佐原で生まれ育ったメンバーからは、馴染みのある場所でもぬいぐるみの視点になることで地元の新しい良さに気が付くことが出来たとのことでした。



12月29日（水） 千葉ジェッツの試合観戦

今回は船橋アリーナにて、プロバスケットボールチーム「千葉ジェッツ」さんと大学の協力を経て、試合に招待して頂きました。限られたスペースということもあって持ち込めるぬいぐるみに限りがありましたが、貴重な経験が出来ました。ご招待ありがとうございました！



1月8日（土） 千葉市内

今回が最後の撮影です。締めくくりは千葉市内（ZOZO マリンスタジアム、花の美術館、千葉ポートタワー）です。

先日の雪が残っており、普段とは違う特別感のある写真を撮ることが出来ました。メンバーも転ばないように慎重に撮影しました。

私たちと一緒に旅してくれた千葉ロッテマリーンズのマスコットキャラクター「マーくん」の本拠地であるZOZO マリンスタジアムにも訪れることが出来ました。



今回で撮影は最後になりますが、天候にも恵まれ、一度も雨に降られずに無事撮影日程を終えることが出来て良かったです。

今後はアルバムの制作作業に移ります。ぬいぐるみの持ち主や協力していただいた方々のために、最後まで全員で協力して頑張ります！

学生ボランティアサークル「ドルフィンズ」のぬいぐるみ旅の活動3 (コロナ禍でもできる学生のボランティア活動)

学生ボランティアサークル「ドルフィンズ」では、コロナ禍で中々出かけられない人（ドルフィンズの利用者）の代わりに、その人の“分身”を連れていくことで少しでも旅した気分になってもらえるようにサークル内で検討し、千葉県内の観光地等で写真や動画の撮影を行っています。また、淑徳大学や各観光地の魅力を少しでも多く知っていただけるように、関係各所の協力のお願いをしながら進めています。

ぬいぐるみ旅の撮影が1月8日をもって全日程終了しました。

1月の後半からは撮影した写真を編集・現像してアルバムにする工程に入りました。

作成したアルバムは、ぬいぐるみの持ち主や協力先の皆様にお渡しする予定です。

お渡しするお相手ごとにチームを作って作業をしており、なかには実用的なカレンダーにしているチームもあります。

どれもメンバーそれぞれのアイデアが詰まっている素敵な仕上がりなので、喜んでもらえたら良いなと思います。



ぬいぐるみ旅の活動も残りわずかとなりました。最後まで部員一同、力を合わせて頑張ります！

学生ボランティアサークル「ドルフィンズ」のぬいぐるみ旅の活動4 (コロナ禍でもできる学生のボランティア活動)

淑徳大学では、コロナ禍でもできる学生のボランティア活動を応援しています。

その中の1つでもある新型コロナ感染拡大に伴うボランティア活動の助成を行っております。

この度、助成対象となった淑徳大学千葉キャンパス 学生ボランティアサークル「ドルフィンズ」による「ぬいぐるみ旅」の活動報告をいただきました。

活動名：学生ボランティアサークル「ドルフィンズ」のぬいぐるみ旅

参加者：27名

活動期間：2021年11月～2022年3月

活動場所：千葉県内の観光地各所

活動内容：

学生ボランティアサークル「ドルフィンズ」では、コロナ禍で中々出かけられない人（ドルフィンズの利用者）の代わりに、その人の“分身”を連れていくことで少しでも旅した気分になってもらえるようにサークル内で検討し、千葉県内の観光地等で写真や動画の撮影を行いました。

そして、撮影した写真を編集・現像して、ぬいぐるみの持ち主や協力先の皆様にお渡しするアルバムを作成しました。

【活動報告書より抜粋】

(総合福祉学部 社会福祉学科3年)

ドルフィンズはコロナ禍で何も活動ができずにサークル運営自体に迷っていましたが、この活動を行うことでとても充実した1年間になりました。活動がなかったことによる学年間の壁もなくなったように思います。

また、このようなご時世でもたくさんの方とつながりを持てる方法があると学ぶことができました。私たちの思い出に残るような素敵な活動が出来て良かったです。

この活動にご協力して下さった皆様、本当にありがとうございました。

(総合福祉学部 社会福祉学科3年)

歓迎会等が行えず、後輩との関わりが薄かったところから、ぬいぐるみ旅を通して、新たなボランティア活動を行い、学年を超えてサークルの部員と関わることができて信頼関係を築くことができましたように感じます。また、ドルフィンズの利用者様のみならず、大学や企業様の力をお借りしてドルフィンズを知ってもらえる機会を作っていただけて大変嬉しく思います。

(総合福祉学部 社会福祉学科3年)

コロナ禍で、活動が中止になっており利用者さんとのつながりが薄れていた中で、ぬいぐるみ旅ができたのは、ドルフィンズにとって大きな一歩だったと思います。

どんな活動をしようか話し合いをした時、他にも食の支援や地域支援など様々な意見が出ていました。どれもとっても大切な支援であると思います。ぜひもっと多くの人を支援していけるサークルになって欲しいと思います！

(総合福祉学部 社会福祉学科2年)

一年次に、コロナの影響でメンバーとコミュニケーションがほぼ取れなかったけど、ぬいぐるみ旅を行い、コミュニケーションの幅が広がりました！とても楽しかったです！

(総合福祉学部 教育福祉学科2年)

コロナ禍で中々利用者さんとの交流を取ることが難しい状況ですが、ぬいぐるみを通じることで、利用者と交流を図ることができ、とても楽しかったです。また、離れていても、心で繋がることはできるのだと実感することができました。

(総合福祉学部 社会福祉学科1年)

私は、佐原、成田、銚子方面の撮影に行きました。私の地元なので、昔から馴染みがありましたが、今回のぬいぐるみ旅を通して改めて地元の良さに気づくことが出来ました。

また、アルバムを作成する過程で、千葉の観光名所を再確認することができ、コロナ禍でも、地元千葉には沢山の観光地があることに気付かされました。

(総合福祉学部 社会福祉学科1年)

コロナ禍ということではなかなか思うようなボランティア活動が出来なかったり、先輩方との交流が出来なかったりしましたが、今回のぬいぐるみ旅を通して、サークルとしての活動を行うことができ、今後のドルフィンズの架け橋となったと感じています。

思うように活動が出来ておらず不安もありますが、活動を維持、発展できるように頑張ります。

まだ活動は限られているかもしれませんが、地域の課題解決や社会貢献につながる活動は、皆さんのアイデアや工夫次第で実現可能です。

また、地域支援ボランティアセンター主催の地域支援活動やボランティア活動も随時案内しています。



淑徳大学では引き続き学生のボランティア活動を応援しています。

是非、様々な活動にチャレンジしてみてください。

9. 参加学生活動報告

総合福祉学部 社会福祉学科 3年 加藤 大輝

●活動実施内容

通常活動で関わってきた知的障害がある利用者の方からぬいぐるみをお預かりし、そのぬいぐるみと共に千葉県各地の観光スポットに訪れて写真を撮る。

活動終了後、撮影した写真とぬいぐるみをお返す。

コロナ禍で外出しづらくなってしまった利用者の方に旅した気分を味わってもらうこと、私たちドルフィンズとの繋がりを保つことを主な目的とした活動。

●感想

ドルフィンズはコロナ禍で何も活動ができずに路頭に迷っていましたが、この活動を行うことでとても充実した1年間になりました。活動がなかったことによる学年間の壁もなくなったように思います。

また、このようなご時世でもたくさんの方とつながりを持つ方法があると学ぶことができました。私たちの思い出に残るような素敵な活動が出来て良かったです。

この活動にご協力して下さいました皆様、本当にありがとうございました。

●今後の活動について

今回の活動を筆頭として、従来の活動以外でも部員がドルフィンズに入部してくれた意義を作っていたら嬉しいです。それと並行して、来年度以降は通常活動の再開も可能な限り出来ることを願います。

また、この活動で重視してきた「人とのつながり」を今後の生活でも大切にしていきたいです。

総合福祉学部 社会福祉学科 3年 日照田 健太

●活動実施内容

アンデルセン公園、成田・銚子方面の旅に参加しました。アルバム作成は千葉ロッテ班を担当しました。

●感想

このぬいぐるみ旅を通して、新たなボランティア活動を行うことができ、新歓等が行えず、後輩との関わりが薄かったことから密に関わることで信頼関係を築くことができたように感じます。

また、ドルフィンズの利用者様のみならず、大学や企業様の力をお借りしてドルフィンズを知ってもらう機会を作っていただけて大変嬉しく思います。

●今後の活動について

4年生になり、サークル活動を行う機会は少なくなっていますが、これまでのドルフィンズでの通常活動やコロナ禍におけるぬいぐるみ旅の活動から得た経験を活かして就職活動や将来に向けて進んでいきたいです。

総合福祉学部 社会福祉学科 3年 草野 紗希

●活動実施内容

コロナ禍において困っている人や、なかなか外出することが出来ない人たちのために、私たちに何が出来るのかを考えぬいぐるみ旅を行いました。

利用者さんが持っているぬいぐるみ等をお預かりして、学生がそのぬいぐるみを持って千葉県内を観光する旅に出かけました。

出かけた先では、ぬいぐるみ（利用者さんの分身）が旅をしている様子を写真に撮り、思い出となるように後日アルバムを作りお渡ししました。

●感想

コロナ禍で活動が思うようにできず、せっかくサークルに入ったのに、何もやれないまま卒業は嫌だと思いました。

最初は、様々な人にアポイントを取るということから始まり、連絡調整の大変さもありました。しかし、ぬいぐるみ旅を通して、利用者さんをはじめ、学生同士の交流もでき、様々な人と絆を深めることができたので嬉しかったです。

また、千葉県には素敵な場所がたくさんあることを実感しました。私たちもとても楽しく活動ができたので良かったです。ご協力してくださった皆様、誠にありがとうございました。

●今後の活動について

コロナ禍で、活動が中止になっており利用者さんとのつながりが薄れていた中で、ぬいぐるみ旅ができたのは、ドルフィンズにとって大きな一歩だったと思います。

どんな活動をしようか話し合いをした時、他にも食の支援や地域支援など様々な意見が出ていました。どれもとっても大切な支援であると思います。

ぜひもっと多くの人を支援していけるサークルになって欲しいと思います！コロナに負けず頑張ってほしいです！

総合福祉学部 社会福祉学科 3年 行木 沙依

●活動実施内容

利用者さんのぬいぐるみをお預かりして、一緒に旅をしている気分になってもらう活動。

●感想

千葉県内にはまだまだ知られていない名所が多いと感じた。

●今後の活動について

今後の活動はコロナ禍ではあるが、利用者さんとの関わりを今より増やしていきたいと思う。

総合福祉学部 社会福祉学科 3年 齊藤 万実子

●活動内容

海浜幕張周辺の旅に行き、活動に協力いただいた方に喜んでもらえるような写真を撮った。旅の内容をまとめたアルバムも作成した。

●感想

メンバーと久しぶりの活動ができることは嬉しかった。担当している活動の“なかま”からの協力もあり、間接的だが顔を見ることができたのも良かった。

●今後の活動について

この活動の達成を通して、ボランティア活動の幅広さに気づき、今までの人のつながりを継続していく活動をおこなっていきたいと思う。

総合福祉学部 社会福祉学科 3年 富岡 瑞奈

●活動実施内容

撮影した写真の整理とアルバム作成

●感想

和気藹々と、とても良いアルバムを作ることができて嬉しかったです。

●今後の活動について

今度は利用者さんと実際にお会いして活動ができれば良いなと思います。

総合福祉学部 社会福祉学科 3年 田嶋 歩美

●活動実施内容

写真撮影やアルバム制作

●感想

ぬいぐるみ旅はドルフィンズの活動としてはじめての試みだったため、はじめはどのような形で活動を進めていけばよいかと不安に思う部分もありましたが、メンバー同士で話し合いを重ね、ぬいぐるみ旅を有意義な活動にすることができたように思います。

コロナ禍で通常活動が制限される中、仲間やメンバーとの繋がりを感じられたぬいぐるみ旅を行えたことを嬉しく思います。

●今後の活動について

まだまだコロナ禍の影響で通常活動が行える見通しは立たないですが、長く続いてきた仲間とのつながりを途絶えさせないように、活動を続けて、また仲間の皆さんと活動できる日を楽しみにしたいと思います。

総合福祉学部 教育福祉学科 3年 伊藤 穂乃花

●活動実施内容

撮影に参加、協力先に贈る写真の編集を担当

●感想

コロナ禍で中々お会いすることができない利用者の皆さんからぬいぐるみをお借りし、一緒に旅をすることができて嬉しかったです。

●今後の活動について

コロナが落ち着いたら、ぬいぐるみ旅で行ったところに利用者の方々と行って欲しいと思います。

総合福祉学部 実践心理学科 3年 笠間 ちひろ**●活動実施内容**

利用者さんのぬいぐるみを持って千葉市内の観光名所に出向き、写真を撮った。後日、撮影した写真をもとにアルバムを作成した。

●感想

通常活動が難しい状況において、コロナ禍だからこそできるぬいぐるみ旅を実施できたのは良かったと思いました。

●今後の活動について

コロナ禍以前のような活動に戻すことは難しいですが、少しずつ形を変えながらも通常活動が再開できれば良いと思います。

総合福祉学部 社会福祉学科 2年 鈴木 穂乃花**●活動実施内容**

利用者から頂いたぬいぐるみ等を持って、利用者が行きたい場所に私達が行き写真を撮り、それをアルバムとして渡す。

●感想

ぬいぐるみ旅を通して先輩と話せたり、間接的に利用者さんと関わりを持つことができ、人とのつながりを感じられた。

●今後の活動について

制限も多いが、もっと行ける範囲を広げて活動ができればと思う。

総合福祉学部 社会福祉学科 2年 布施 遼太**●活動実施内容**

ぬいぐるみ旅はコロナウイルスの影響により外出するのが厳しい利用者の方に、外出した気分になってもらう為にぬいぐるみ（分身）をお借りして千葉県内の観光スポットを巡る。

●感想

ぬいぐるみ旅を通じ千葉県内の観光名所を巡り、千葉県の良さを感じることができ、同時にサークルのやりがいを感じた。

●今後の活動について

コロナウイルスが蔓延してやれることが制限される中、何が出来るのかを学生同士で相談し地域の方等の為に出来ることを考え活動を行っていく。

総合福祉学部 社会福祉学科 2年 小泉 晴信

●活動実施内容

千葉県のような名所に行き、ぬいぐるみと共に旅をする。

●感想

一年次に、コロナの影響でメンバーとコミュニケーションがほぼ取れなかったけど、ぬいぐるみ旅を行い、コミュニケーションの幅が広がりました！とても楽しかったです！

●今後の活動

新歓に力を入れていきたいです！ボランティアに関心を持っていない方にも、知名度を上げて、ボランティアの素晴らしさを伝えていきたいです！

総合福祉学部 社会福祉学科 2年 大里 愛莉

●活動実施内容

利用者さんとの関係性を途絶えさせないようにするために、利用者様の一番大切な物を預かり千葉県の観光スポットに旅をさせる。

また、淑徳大学を知ってもらうとともに、私達も千葉の観光名所を知る。

初 日→ドイツ村

2 日目→葛西臨海公園&水族館

3 日目→佐原方面（伊能忠敬旧宅・山車会館）

4 日目→（千葉ジェッツ）

旅終了後

アルバム作成→ていんくる班

●感想

昨年の4月からドルフィンズに入部し、全く活動が出来なかった1年間であった。

しかし、その1年を乗り越え、今年は新たな試みとして「ぬいぐるみ旅」を行えたことは私にとって凄く貴重な経験であり、とても有意義に過ごせた時間であった。

私は活動実施内容にあげた場所を旅した。その他にも行きたい場所があったけれど、いつでも行けると思いぬいぐるみ旅としては行かなかった。その中でも一番印象に残っているのはドイツ村だ。それは、初めてのイルミネーションということもありワクワクした他素敵なメンバーと感動を分かち合えたことが大きいからだ。

まず、午前中にはきみさらずタワーに行った。そこで木更津市街地を一望できたことにより、心のリフレッシュになり、訪れて良かった場所だった。その後ドイツ村に移動した。ゆとりある移動だったので点灯する前から見られて貴重だった。点灯の時間がきて人生初イルミネーションの壮大さや感動を分かち合えて良かった。

翌日は、葛西臨海方面に参加した。多少ハプニングで参加してくださった方々にご迷惑をかけてしまったが、観覧車で東京スカイツリーや房総半島などを眺められ、それと同時に子ども心もくすぐられ楽しい空中散歩だった。そのあと水族館に移動して、何年かぶりの水族館でぬいぐるみと生き物の両方の可愛さで癒され、また行きたいと思えた場所だった。

今度は佐原方面に行くことができた。移動が長かったのがビックリした。伊能忠敬旧宅、山車会館、佐原の街並みを散策し、昔の街並みを実感し歴史と伝統に触れられ佐原の山車を実際に見てみたいと思えた。

千葉に上京してきて、千葉の至る所を散策でき、どの場所も楽しく最高の思い出をつくることができ

たと実感している。

この活動ができたのも、代表をはじめ、地地支援ボランティアセンターの方々が素敵な機会を与えてくださってできたことであるので改めて感謝を伝えたい。“素敵な機会をありがとうございます”

次年度どうなるか分からないが、利用者との関係を途絶えさせることのないように、コロナ禍でも活動できたことが本当に有難いことだと身に染みて学べた活動だった。次年度からも楽しいドルフィンズにしていけるように頑張っていきたい。

●今後の活動について

この先どうなるか分からないが、コロナの状況を見つつ、みんなの声を聞きつつ、利用者との関係性を途絶えさせないようにするためにも、柔軟にやりがいある楽しいドルフィンズを作っていきたい。

総合福祉学部 社会福祉学科 2年 多根 瑞喜

●活動実施内容

コロナ禍でもできるボランティアを考え、対象者の検討、スケジュール計画を行いぬいぐるみ旅を実行した。

千葉に拠点を持つスポーツチームやドルフィンズのなかまに参加協力を募り、各チームのマスコットキャラクターや思い入れのあるぬいぐるみなどの物品をお借りした。千葉県内を中心とした観光名所において写真撮影を行い、それらを元にアルバム作成を行った。

●感想

慣れ親しんだ千葉県での撮影でしたが、皆さんの思い入れのあるものを持つての撮影であったため、特別な場所のように感じました。

アルバム作成では、コロナ禍でなかなか実感することができなかったなかまとの繋がりを感じることができ、とても嬉しかったです。

●今後の活動について

なかまと直接的な関わりを持つボランティアを行いたいという気持ちが強くありますが、コロナ禍でもできるボランティアを考え、実行していきたいです。

総合福祉学部 社会福祉学科 2年 廣澤 由笑

●活動実施内容

日頃お世話になっている方々へ、コロナ禍でもできる活動としてドルフィンズが企画。

私たちが代行させていただいて、千葉の観光地や風景をお世話になった方々が思い入れのあるぬいぐるみと共に旅をしながら写真を撮らせていただく活動。

●感想

私自身のドルフィンズとしての大きな活動はこのぬいぐるみ旅が初めてでした。

コロナ禍で疎遠になりかけていたドルフィンズがお世話になっている方々と、こうした企画でまた繋がることのできたことを嬉しく思っています。

●今後の活動について

新型コロナウイルスにより、情勢が今後どのように変わっていくか予想が難しいところではあります

が、コロナ禍でも活動できるような内容を今後も模索し続けていきたいと考えています。

また、コロナ禍により対面活動が難しかったことによる部員同士の関係の希薄さにも目を向けていき、部員がドルフィンズに入ってよかったと思えるような楽しいサークルにもしていきたいと考えています。

総合福祉学部 社会福祉学科 2年 村田 安優

●活動実施内容

さまざまなグループのなかまからぬいぐるみ等を預かり、我々が旅をして写真等をお渡しすることで旅した気分を味わっていただくという企画内容です。

●感想

この活動に協力して下さった全ての人が笑顔になることができ、また私自身も様々な地に赴くことでその街の歴史等を学んだりできて良いことづくめの活動でした。

●今後の活動について

今まで通りの活動が今後再開することができるかわかりませんが、再開してもこのぬいぐるみ旅を毎年行うのもいいのではないかと思います。

総合福祉学部 社会福祉学科 2年 石黒 志歩

●活動実施内容

“なかま”からお預かりしたぬいぐるみやなかまの写真などと一緒に成田・銚子方面で活動を行いました。

●感想

地方出身なのでぬいぐるみ旅を通して、千葉県の魅力を発見することができました。完成したアルバム等をなかまや協力して下さった団体の方々に見てもらうのが楽しみです。また、2年生はぬいぐるみ旅が初めての活動だったため、先輩や後輩との仲を深める良い機会にもなりました。

●今後の活動について

今後も感染症の様子を見ながら、少しでもなかまのために出来ることがないかを考えて、活動を行いたいと思います。

総合福祉学部 社会福祉学科 2年 山川 慧大

●活動実施内容

バスケ観戦と撮影

●感想

スポーツ観戦が初めてだったのでいい経験になりました。
また、利用者の方に喜んで貰えると幸いです。

●今後の活動について

施設の方々に写真を通して旅を味わって貰えるように頑張っていきたいと思っています。

総合福祉学部 社会福祉学科 2年 鈴木 美帆

●活動実施内容

旅に行くことが難しい人の代わりに自分も旅を楽しみながら、借りたぬいぐるみと一緒に旅の思い出を写真に収めるという活動をしました。

●感想

自分もおしゃれやキレイだと思う写真を撮り、一緒に楽しむことができ、実際に会うことはできなくても人との繋がりを感じることができました。

旅を通して新たな人との繋がり方を知ることができ、千葉県の魅力も新たに知ることができて素敵な思い出にもなりました。

●今後の活動について

新たに行動を起こすことが難しい状況ですが、だからこそできることを探してボランティア活動などに積極的に参加をしていきたいです。

総合福祉学部 社会福祉学科 2年 市川 裕友

●感想

ぬいぐるみ旅で私が普段行けないところを巡ってよかったです。5年ぶりくらいに大人数で巡って楽しかったです。

総合福祉学部 教育福祉学科 2年 柴田 彩花

●活動実施内容

コロナ禍で中々お出かけする機会をもてない利用者さんの代わりに、思い入れのあるぬいぐるみや写真をお借りして、代わりに様々な観光地に行ってきました。

また、お出かけした気分をより深く味わってもらうために、観光地でぬいぐるみと一緒に撮った写真をアルバムにまとめ、プレゼントをしました。

●感想

コロナ禍で中々利用者さんとの交流を取ることが難しい状況ですが、ぬいぐるみを通じることで、利用者との交流を図ることができ、とても楽しかったです。

また、離れていても、心で繋がることはできるのだと実感することができました。

●今後の活動について

今の状況が落ち着いてきたら、もっと利用者さん達と直接的な関わりをもちたいです。今後もぬいぐるみ旅は継続して行っていきたいです。

総合福祉学部 教育福祉学科 2年 清水 萌里**●活動実施内容**

コロナ禍で出かけられない人の代わりに、その人の分身（ぬいぐるみ等）を連れて、千葉県内の観光地等で写真を撮る。

●感想

サークルに入って、初めてのボランティア活動を行うことができ、とても嬉しかった。自分たちも楽しみながら、活動できたのが良かったと思う。

●今後の活動について

コロナ禍ということもあり、できることが限られてくるが、「ドルフィンズ」の伝統を絶やさずに、これからの活動も盛り上げていきたい。

総合福祉学部 社会福祉学科 1年 椎名 謙**●活動実施内容**

アルバム用の写真撮影、アルバム作成

●感想

私は、佐原、成田、銚子方面の撮影に行きました。私の地元なので、昔から馴染みがありましたが、今回のぬいぐるみ旅を通して改めて地元の良さに気づくことが出来ました。

また、アルバムを作成する過程で、千葉の観光名所を再確認することが出来、コロナ禍でも、地元千葉には沢山の観光地があることに気付かされました。

●今後の活動について

コロナ禍ということで思うようなボランティア活動が出来ず、先輩方との交流が出来なかったが、今回のぬいぐるみ旅を通して、活動をすることが出来、今後のドルフィンズの架け橋となったと感じています。

1. 2年生は思うように活動が出来ておらず不安もありますが、活動を維持、発展できるように頑張ります。

総合福祉学部 教育福祉学科 4年 段木 真衣香**●活動実施内容**

船橋アンデルセン公園にてぬいぐるみ撮影を行いました。

●感想

ドルフィンズとして活動する機会が少ない中、4年生として今回のぬいぐるみ旅に参加できて良かったです。後輩のみんなが積極的に活動している様子も見ることができました。

●今後の活動について

コロナ禍では、対面で行うボランティア活動は難しく、これまでの活動はお休みしている状態です。形を変えたボランティア活動は何かできないかと模索中です。

10. 活動の様子





淑徳大学地域支援ボランティアセンターの活動はこちらから
<https://www.shukutoku.ac.jp/university/facilities/volunteer/>

淑徳大学 地域支援ボランティアセンタープログラム

認知症サポーター養成講座

この講座は学生のみならず教職員が地域社会の一員として、認知症と認知症の方への接し方を理解し、積極的に行動できることをめざして淑徳大学地域支援ボランティアセンター東京が主催しています。2021年度も前年同様新型コロナウイルスの感染が収まらず、一般募集はオンライン（ZOOM）参加に限定されたため募集はありませんでした。しかし、人文学部の学生と短期大学部の学生は感染対策を行った上で対面での受講することができました。今後とも、コロナ禍でも地域住民とも連携できる取り組みについて検討し、積極的に企画・発信していきたいと思えます。

◆東京キャンパス 令和3年12月10日（金）

学生、教職員を含め29名が出席しました。（内訳 人文学部14名、短期大学部13名、職員2名）

（講師）

社会福祉法人ハッピーネット若葉ゆめの園デイサービスセンターセンター長 鹿糠沢 裕太 氏

講師としてお招きした鹿糠沢様は昨年も依頼し評判の良かった方で、比較的年齢も若く軽妙な語り口で学生にも受け入れやすい講義内容でした。学生たちは真剣に講義を聞き入り、グループワークも活発に行われ意見の発表等も的を射ていました。

講座後アンケートと引き換えにオレンジリングに代わり「認知症サポーターカード」を手渡されました。

また、今回の講座に授業等で参加できなかった学生のためにビデオ撮影を行い、短期大学部のYouTubeチャンネルに限定公開としてアップ。教職課程運営委員会とボランティアセンター運営委員会のメンバーにURLの共有を行いました。



認知症サポーター養成講座 アンケート(有効回答数:29名)

1. 本日の講座の内容はいかがでしたか？

たいへんよかった	よかった	あまりよくなかった	よくなかった
28名	1名	0名	0名

2. 受講された方の年代、性別を教えてください。

10代	20代	40代	50代	未記入
17名	9名	1名	1名	1名

男性	10名	女性	19名
----	-----	----	-----

3. 今後、認知症サポーターとして、できると思う活動に○をつけてください。

	活動内容	人数	割合
普及	講座で学んだことを、家族や友人に話すことができる	28名	97%
普及	認知症サポーターカードを携帯し、友人などに養成講座の受講を勧めることができる	20名	69%
声かけ・手助け	近所の高齢者に日頃からあいさつをするなど、声をかけることができる	24名	83%
声かけ・手助け	近所で認知症かもしれない方をみかけたら、声をかけることができる	20名	69%
声かけ・手助け	介護する家族の方の大変さなどを聞くことができる	16名	55%
見守り・連携	ひとり暮らしの高齢者を最近見ないなど気になったとき、民生委員やおとしより相談センターに相談できる	14名	48%
見守り・連携	物忘れなどの相談を受けた時、相談先（おとしより相談センターやもの忘れ相談医）を案内することができる	21名	72%

4. 本日の講座の感想をお聞かせください。(抜粋)

- 認知症について知らなかったことが知れた・知識が深まった・学べてよかった。(12名)
- とても分かりやすかった・理解しやすかった。(4名)
- 家族が認知症なのでとても参考になった。(4名)
- 今後は認知症の方への関わり方に気をつけていきたい・今回の講座を活かしていきたい。(11名)
- 今後は「3つのない」を心がけたい。(2名)
- 傾聴を通して、認知症の方の不安を少しでも和らげていきたい。
- 自分の先入観で声かけをせず、相手の立場に立って優しく話す重要性が分かった。(2名)
- 困っている方がいたら声をかけようと思う。(2名)
- 対応の仕方について、失語のしくみが分かったのが大変参考になった。
- 実際にあった事例の映像の再現や例えなどがあり、分かりやすく学ぶことができた。(3名)
- 今まで接した高齢者の方の行動に納得・理解ができた。
- 身近な人が認知症になったときどう対応するか考えるきっかけになった。
- 認知症の方に対して「怖い」など偏見を抱いていたことに気づいた。
- 一人ひとり対応を変えなくてはならないので、認知症の方への対応は大変だと思った。

2. 各キャンパスにおける活動内容

令和3年度 ボランティア活動実績（千葉キャンパス取りまとめのみ）

日時	種別	単発 継続	件名	依頼元	内容	人数	備考
4月～	学・障	継	小学生への手話指導ボランティア(リモート)	個人依頼(手話サークルへ)	リモート	11	2020.11より
4月～	学	継	千葉市立蘇我小学校学習支援ボランティア	蘇我小学校	教員サポート	1	
5月～	学	継	千葉市立院内小学校学習支援ボランティア	院内小学校	教員サポート	4	
5/15, 16	他	単	わくわく体験教室	(一社)新都心教育開発	イベント支援	1	
5/21～31	他	単	経済センサス調査	千葉市中央区役所	調査書配布	38	
6月～	学	継	千葉市立院内小学校学習支援ボランティア	院内小学校	教員サポート	8	
6/19, 20	他	単	わくわく体験教室	(一社)新都心教育開発	イベント支援	1	
7月～	保・学	継	おひさま文庫	NPO法人 3.11子ども文庫おひさま	スタッフ支援	1	
7月～	学	継	千葉市立院内小学校学習支援ボランティア	院内小学校	教員サポート	5	
7/6～10	地	単	Yohas(大賀ハスマつり夜の部)	Yohas実行委員会	地域イベント支援	25	
7月16日	地	単	大巖寺小学校通学路安全確認	大巖寺小学校	地域支援	2	
7月20日	学・地	単	生浜高校ライトカフェ	生浜高等学校	教員サポート・イベント支援	12	
8月～	学	継	千葉市立院内小学校学習支援ボランティア	院内小学校	教員サポート	1	
8/25～29	障	単	パラリンピック 車いすフェンシング	オリンピック・パラリンピック組織委員会	スポーツ大会支援	15	
10月～	学	継	千葉市立松ヶ丘中学校学習支援ボランティア	松ヶ丘中学校	教員サポート	9	
10月～	地	継	ボランティア・社会貢献活動推進セミナー実行委員	千葉市社会福祉協議会	地域イベント支援	3	
10月17日	地	単	ジェフユナイテッドお出迎えイベント	「Let's enjoy そが」かざぐるまプロジェクト 実行委員会	地域イベント支援	5	
10月21日	高・地	継	白旗地区高齢者配食サービス	千葉市社会福祉協議会他	高齢者支援	9	
10/23～25	高・他	単	駅からハイキング(誘導・体力測定・アフレインストール)	公益財団法人千葉県老人クラブ連合会	イベント支援	13	
10月25日	学・地	単	生浜高校ライトカフェ	生浜高等学校	教員サポート・イベント支援	3	
11月1日	高	単	高齢者スマホ講座アシスタント	千葉市スマートシティ推進課	高齢者向けイベント支援	1	
11/4～7	地	単	Urban MTB Festival in 千葉公園	一般財団法人日本サイクルスポーツ振興会	地域イベント支援	9	
11月17日	学・地	単	生浜高校ライトカフェ	生浜高等学校	教員サポート・イベント支援	11	
11月18日	高・地	継	白旗地区高齢者配食サービス	千葉市社会福祉協議会他	高齢者支援	17	
11月23日	障・他	単	パラスポーツフェスタちば	千葉県環境生活部生涯スポーツ振興課	スポーツ大会支援	14	
12月2日	障・学	単	特別支援学校駅伝大会中学部	千葉県特別支援学校体育連盟	スポーツ大会支援	10	
12月3日	学	単	大巖寺小キャンパスツアー	大巖寺小学校	教員サポート	5	
12月3日	障・学	単	特別支援学校駅伝大会高等部	千葉県特別支援学校体育連盟	スポーツ大会支援	4	
12月8日	学・地	単	生浜高校ライトカフェ	生浜高等学校	教員サポート・イベント支援	11	
12月16日	高・地	継	白旗地区高齢者配食サービス	千葉市社会福祉協議会他	高齢者支援	17	
1月20日	高・地	継	白旗地区高齢者配食サービス	千葉市社会福祉協議会他	高齢者支援	14	
2月17日	高・地	継	白旗地区高齢者配食サービス	千葉市社会福祉協議会他	高齢者支援	12	
3月17日	高・地	継	白旗地区高齢者配食サービス	千葉市社会福祉協議会他	高齢者支援	3	
3月24日	学・地	単	生浜高校ライトカフェ	生浜高等学校	教員サポート・イベント支援	7	
合計						302	

* 災害支援活動ボランティアは「災害関連ボランティア活動実績」を参照。

* 直接学生が先方と連絡をとって実施したボランティアは一部含まれず。

* 2021年度も新型コロナウイルス流行により、学生のボランティア活動は大幅に制限されたが、自治体からのイベント等の依頼は微増。

支援の種別についてはそれぞれ、保:保育、学:学習、障:障がい、高:高齢者、地:地域

令和3年度 災害関連ボランティア活動実績（千葉キャンパス）

淑徳大学地域支援ボランティアセンター

日時	種別	単発・継続	件名	企画元	内容	参加者 (延べ数)	備考
通年(1/8~10)	被災地支援 (石巻市雄勝)	継	【大学千葉企画】 雄勝カレンダープロジェクト	地域支援 ボランティアセンター (千葉キャンパス)	復興支援カレンダー作成	2	平成23年度から継続中
12/23~3月	被災地支援 (石巻市雄勝・ 南三陸町)	継	【大学全体企画】 パネルシアターキャラバン	地域支援 ボランティアセンター	被災地の子どもや高齢者への「心の ケア」を目的としたパネルシアターの 上演*1	2	平成23年度から継続中
合計						2	
大学全体企画参加者						2	
総合計						4	

* 1 新型コロナウイルス感染拡大のため、埼玉キャンパスでのDVD制作・送付となった。人数は千葉キャンパスからの参加人数。

雄勝地区への「学習支援ボランティア」「スタディーツアー」は今年度中止。

一般ボランティアは「ボランティア活動実績(千葉キャンパス取りまとめのみ)」参照。

令和3年度 ボランティア活動実績（千葉第二キャンパス）

日時	単発継続	件名	依頼元	内容	参加 人数	備考
5月8日(土)	継続	淑徳オレンジカフェ(ひだまり)	ひだまり	運営支援	11	
6月5日(土)	継続	淑徳オレンジカフェ(ひだまり)	ひだまり	運営支援	14	
7月3日(日)	継続	淑徳オレンジカフェ(ひだまり)	ひだまり	運営支援	4	
7月11日(日)	単発継続	松が丘地区 子供110番	松が丘中学地区育成委員	松が丘中学地区育成行事	5	
7月11日(日)	単発継続	松が丘地区 こどもまつり	松が丘中学地区育成委員会	松が丘中学地区育成行事	10	
8月3日~ 8月13日	単発	図書館開放ウィークの周知活動	なし	運営支援	4	新規
10月16日(土)	継続	松が丘中学地区子ども食堂	松が丘中学地区育成委員会	運営支援支援	4	
10月17日(土)	単発	松が丘地区緑化推進プロジェクト ⇒雨天中止	松が丘地区 千葉市緑化推進プロジェクト (千葉市中央区地域活性化事業)	緑化推進	3	
10月21日(木)	継続	高齢者対象の昼食配食サービス	白旗台地区部会・社会協議会	運営支援支援	2	新規
11月6日(土)	継続	淑徳オレンジカフェ(ひだまり)	ひだまり	運営支援	2	
11月18日(木)	継続	高齢者対象の昼食配食サービス	白旗台地区部会・社会協議会	運営支援支援	2	
12月4日(土)	継続	淑徳オレンジカフェ(ひだまり)	ひだまり	運営支援	3	
12月16日(木)	継続	高齢者対象の昼食配食サービス	白旗台地区部会・社会協議会	運営支援支援	2	
12月18日(土)	継続	松が丘中学地区子ども食堂	松が丘中学地区育成委員会	運営支援支援	5	
12月20日(土)	単発	千葉県立南高校高大連携事業内 キャンパスツアー	なし	運営支援支援	3	新規
1月8日(土)	継続	淑徳オレンジカフェ(ひだまり)	ひだまり	運営支援	2	
1月20日(木)	継続	高齢者対象の昼食配食サービス	白旗台地区部会・社会協議会	運営支援支援	2	
2月5日(土)	継続	淑徳オレンジカフェ(ひだまり)	ひだまり	運営支援	3	
2月17日(木)	継続	高齢者対象の昼食配食サービス	白旗台地区部会・社会協議会	運営支援支援	2	
3月5日(土)	継続	淑徳オレンジカフェ(ひだまり)	ひだまり	運営支援	3	
3月17日(木)	継続	高齢者対象の昼食配食サービス	白旗台地区部会・社会協議会	運営支援支援	2	

* 高齢者対象の昼食配食サービスは、学生が献立提供とお弁当箱への栄養情報のチラシの作成を行い、MKFグループがお弁当(月平均 約70食)の作成を行った。

令和3年度 ボランティア活動実績（埼玉キャンパス）

日時	種別	単発・継続	件名	依頼元	内容	人数	備考
6月～1月	教育	単年	川越市特別支援教育ボランティア	川越市教育委員会	小・中学校における児童生徒の支援	8	
7月	教育	単年	三芳町立三芳小学校学習支援ボランティア	三芳町立三芳小学校	学習支援	6	
7月	教育	単年	三芳町立唐沢小学校学習支援ボランティア	三芳町立唐沢小学校	学習支援	9	
7月	教育	単年	三芳町立竹間沢小学校学習支援ボランティア	三芳町立竹間沢小学校	学習支援	7	
7月	教育	単年	富士見市立諏訪小学校学習支援ボランティア	富士見市立諏訪小学校	学習支援	7	
7月	教育	単年	朝霞市立小学校水泳指導支援	朝霞市教育委員会	小学校における水泳指導時の補助	7	
7/26-7/30	教育	単年	三芳町立井藤久保小学校学習支援ボランティア	三芳町立井藤久保小学校	学習支援	26	
10月16日	教育	単年	文化芸術大学☆ふじみ	富士見市教育委員会	文化芸術大学の運営サポート、活動支援	6	
10/16 11/20 12/11	教育	単年	子ども大学☆ふじみ	富士見市教育委員会	子ども大学の運営サポート、活動支援	18	
10/16 11/13 12/4	教育	単年	子どもスポーツ大学☆ふじみ	富士見市教育委員会	子どもスポーツ大学の運営サポート、活動支援	18	
11月11日	教育	単年	子育て支援ルームびよびよ	教員保育士養成支援センター	ベビーマッサージ教室、パネルシアター、手遊び	5	
12月2日	教育	単年	子育て支援ルームびよびよ	教員保育士養成支援センター	ベビーマッサージ教室、パネルシアター、手遊び、ハンドベル演奏	12	
12月5日	教育	単年	第12回パネルシアター学生交流会	パネルシアター教育研究会	パネルシアター発表、および交流	12	
12月	教育	単年	淑徳コミュニティーカレッジオンライン配信「親子で遊ぼう！わくわくクリスマス」	淑徳大学	タオル遊び、ハンドベル演奏、パネルシアター上演、靴下人形劇	11	
12月9日	教育	単年	子育て支援ルームびよびよ	教員保育士養成支援センター	タオル遊び、造形遊び、手遊び、パネルシアター、ハンドベル演奏	19	
12月～	教育	継続	三芳おなか子ども食堂	NPO法人れいでいーぼーど	子ども食堂スタッフ、パネルシアター上演	8	
3月	教育	単年	東日本大震災復興10年TOMOIKI企画～できることをいまここから～	淑徳大学ボランティア委員会	パネルシアター公演DVD制作	14	
3月10日	教育	単年	子育て支援ルームびよびよ	教員保育士養成支援センター	タオル遊び・造形あそび・手遊び・パネルシアター上演など	6	
7月～11月	経営	単年	みよしまつりボランティア	三芳町自治安心課	聖火リレー（7月）、三芳町いいところマップ制作（8～10月）、おうちで花火（11月）	26	みよしまつりは中止となり、代替となるイベントへのボランティア、三芳町との連携によるマップ制作（淑徳祭で公開）を行った
11月3日	経営	単年	横瀬町六番峠道落ち葉掃き	横瀬町との連携事業	横瀬町の山道「六番峠道」の落ち葉掃き	13	
11月28日	経営	単年	横瀬町思索の道落ち葉掃き	横瀬町との連携事業	横瀬町の山道「思索の道」の落ち葉掃き	21	
合計						259	

令和3年度 ボランティア活動実績（東京キャンパス）

日時	学科・コース	件名	依頼元	内容	人数	備考
4月～6月	表現	ユニバーサルキッズすまいるコンサート	ユニバーサルキッズすまいるコンサート実行委員会	イベントチラシの制作	1	12月、オンラインにて実施
7月3日	こ・介	障害者ホームヘルプサービスの実践現場における「共生」とは	センター事業	自立生活センター自立の魂 代表磯部 浩司様による講話、他	37	ZOOM開催
8月3日	こ	親子で参加 楽しい造形教室 ～アクアリウムを作ろう～	センター事業	オンラインによる造形活動 親子17組が参加	3	ZOOM開催
8月26日	こ・介	子ども食堂ってどんなところ？ ～にこにこ食堂の実践に学ぶ～	センター事業	「子ども食堂」が全国的に増加している背景や、板橋区内の子ども食堂の現状を知る	12	ZOOM開催
8月28日	こ・介	親子で参加 楽しい体操教室	センター事業	①学生ボランティアの演技 ②講師による室内体操の指導 親子5組が参加	3	ZOOM開催
10月30日	こ	ほほえみの会「リズム遊び」	ほほえみの会 (板橋区ダウン症児・者親の会)	ピアノと打楽器による演奏 親子5組が参加	8	ZOOM開催
11月28日	表現	第8回いたばし結まつり	いたばし総合ボランティアセンター	結まつりステージ司会者	3	
12月5日～	こ	ユニバーサルキッズすまいるコンサート	板橋区社会福祉協議会他	「廃材でタイコを作って遊ぼう」という動画を作成。他の共催団体と共に一本の動画に編集し、板橋社協のYouTubeチャンネルで公開	6	オンライン
合計					73	

*新型コロナウイルス感染症拡大の影響で対面活動を行っていません。

令和3年度

淑徳大学地域支援ボランティアセンター活動報告書

淑徳大学地域支援ボランティアセンター

〒260-8701 千葉県千葉市中央区大巖寺町200

TEL.043-265-7331（代表） FAX.043-265-8310（代表）

